

4-24

主語と述語の関係 2

学習日 月 日 ( )

この本は、図書館で借りた。



述語は、「借りた」ですね。では、借りたのはだれでしょう？「この本は」ではありません。「図書館で」でもありません。この文には「だれが」に当たる部分がありません。主語が省略しょうりやくされることもあります。

次の文の述語に気をつけながら、主語を( )に書きましょう。文の中に主語がないときは、省略されている主語を書きましよう。

- ①「けい子さんは、もう帰りましたか。」 ( )
- 「いいえ、まだ教室にいます。」 ( )

② 動物園には、キリンがいます。 ( )

- ③「お元気ですか。」 ( )
- 「はい、元気です。」 ( )

読めるかな？

☆ 次の月の名前を読みましよう。

- 七月：… 文月 ( )
- 八月：… 葉月 ( )
- 九月：… 長月 ( )
- 十月：… 神無月 ( )
- 十一月：… 霜月 ( )
- 十二月：… 師走 ( )

◎ 読み方を忘れた人は、プリント 22 を見て、読み方を確認ましよう。

家の人のしるし ↓ □



4-25

音読みと訓読み 1

学習日 月 日 ( )

一 漢字の読み方には二つの種類があります。

音読みは、漢字が日本に伝わったときの中国の発音をもとにした読み方です。訓読みは、その漢字の意味に合う日本語をあてはめた読み方です。次の文の①・②は音読み・訓読みのどちらでしょうか。

近くの薬局<sup>①</sup>へ行って、かぜ薬<sup>②</sup>を買った。

- ① ( )
② ( )

次の旅<sup>①</sup>では和風の旅館<sup>②</sup>にとまりたい。

- ① ( )
② ( )

二 次の文の「生」はどのように読みますか。読みがなを書きましよう。

① 川の中の小さな生物<sup>生</sup>を調べる。

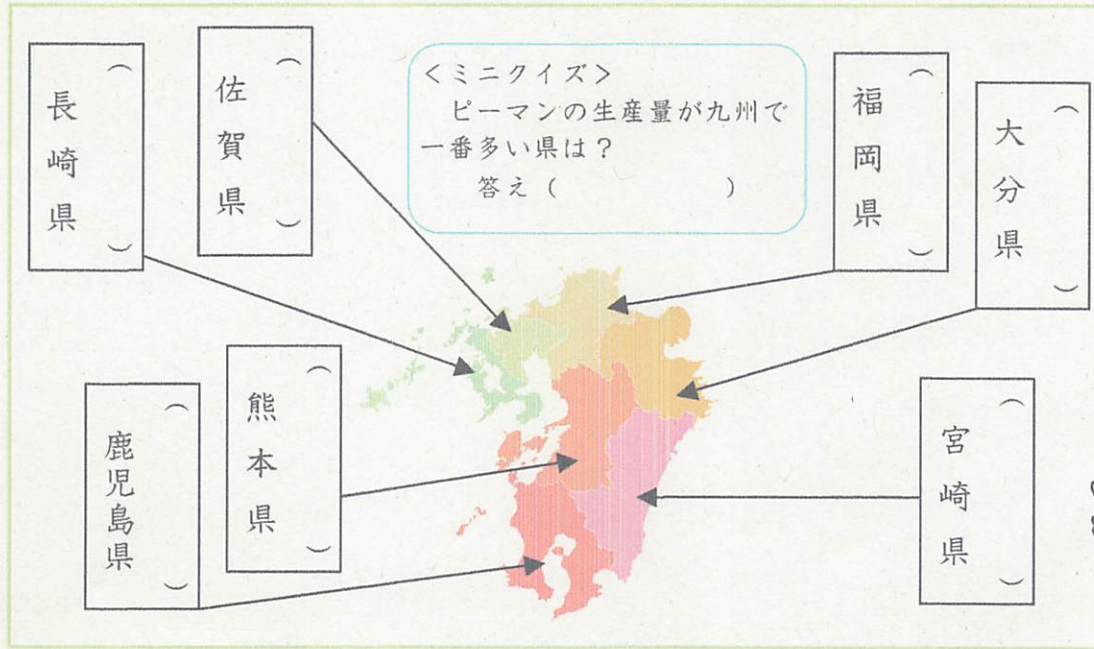
② 生き物<sup>生</sup>係の仕事をする。

漢字辞典で「音訓さくいん」のページをみつけて、①と②の読み方で「生」を調べましよう。調べましたか？「生」にはとてもたくさんの訓読みがありますね。書き出してみましよう。

【生】訓

九州地方の県(1)

きゅうしゅう やじろし 矢印の県の名前を読みましよう。



<ミニクイズ> ピーマンの生産量が九州で一番多い県は？ 答え( )

家の人のしるし ↓ □



4-28

文と文をつなぐ言葉 1 学習日 月 日 ( )



例に、二つの文があります。ちがうことを書いていますが、この文と文の間に言葉を入れると、文がつながり、わかりやすくなります。

(例) わたしは、牛乳が好きです。(だから)、毎朝牛乳をのんでいます。

☆例のように上下の文と文をつなぐ言葉を□から選んで( )に入れましょう。

- ① わたしは、図書館に行きました。( )、静かに本を読みました。
- ② あさっては、テストがあります。( )、ぜんぜん勉強をしていません。
- ③ 日曜日に、米子の水鳥公園へ行きました。( )、水木しげるロードにも行きました。

しかし また だから

④ 試合に負けてくやしかった。( )、次の日から、一生懸命練習した。



文と文をつなぐ言葉を「接続語」といい、文と文の関係をはっきりさせる働きをしています。

読めるかな？

☆ 次の月の名前を読みましよう。

- 一月…睦月 ( )
- 二月…如月 ( )
- 三月…弥生 ( )
- 四月…卯月 ( )
- 五月…皐月 ( )
- 六月…水無月 ( )
- 七月…文月 ( )
- 八月…葉月 ( )
- 九月…長月 ( )
- 十月…神無月 ( )
- 十一月…霜月 ( )
- 十二月…師走 ( )

家の人をしるし↓ □



4-24

主語と述語の関係 2

学習日 月 日 ( )

この本は、図書館で借りた。



述語は、「借りた」ですね。では、借りたのはだれでしょう？「この本は」ではありません。「図書館で」でもありません。この文には「だれが」に当たる部分がありません。主語が省略しょうりやくされることもあります。

次の文の述語に気をつけながら、主語を( )に書きましょう。文の中に主語がないときは、省略されている主語を書きましよう。

- ①「けい子さんは、もう帰りましたか。」( ) **けい子さんは** ( )
- 「いいえ、まだ教室にいます。」( ) **けい子さんは** ( )

- ②動物園には、キリンがいます。( ) **キリンが** ( )

- ③「お元気ですか。」( ) **あなたは** ( )
- 「はい、元気です。」( ) **わたしは** ( )

読めるかな？

☆次の月の名前を読みましよう。

- 七月：…文月( **ふみづき** )
- 八月：…葉月( **はづき** )
- 九月：…長月( **ながつき** )
- 十月：…神無月( **かんなづき** )
- 十一月：…霜月( **しもつき** )
- 十二月：…師走( **しわす** )

◎読み方を忘れた人は、プリント 22 を見て、読み方を確認ましよう。

家の人のしるし↓



4-25

音読みと訓読み 1

学習日 月 日 ( )

一 漢字の読み方には二つの種類があります。

音読みは、漢字が日本に伝わったときの中国の発音をもとにした読み方です。訓読みは、その漢字の意味に合う日本語をあてはめた読み方です。次の文の①・②は音読み・訓読みのどちらでしょうか。

近くの薬局へ行って、かせ薬を買った。

- ① (音読み)
- ② (訓読み)

次の旅では和風の旅館にとまりたい。

- ① (訓読み)
- ② (音読み)

二 次の文の「生」はどのように読みますか。読みがなを書きましよう。

① 川の中の小さなせい生物を調べる。

② せい生き物係の仕事をする。

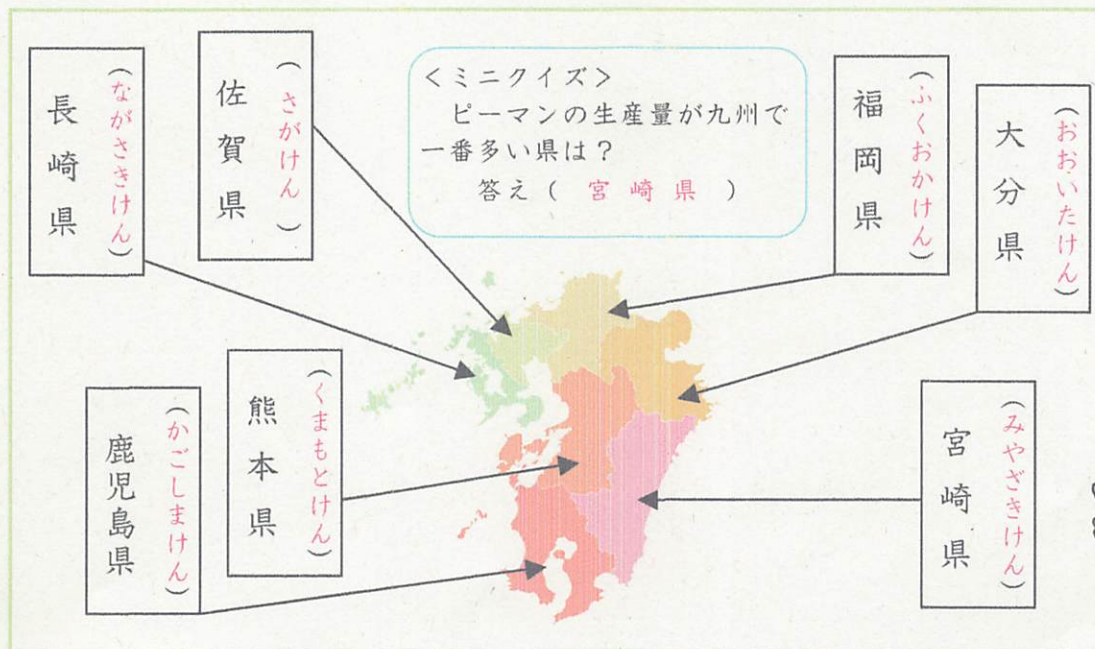
漢字辞典で「音訓さくいん」のページをみつけて、①と②の読み方で「生」を調べましよう。

調べましたか? 「生」にはとてもたくさんせいの訓読みがありますね。書き出してみましよう。

【生】訓 いきる・いかす・いける・うまれる・うむ・おう・はえる・はやす・き・なま

九州地方の県(1)

矢印の県の名前を読みましよう。



<ミニクイズ>  
ピーマンの生産量が九州で一番多い県は?  
答え ( 宮崎県 )

家の人のしるし ↓



4-28

文と文をつなぐ言葉 1 学習日 月 日 ( )



例に、二つの文があります。ちがうことを書いていますが、この文と文の間に言葉を入れると、文がつながり、わかりやすくなります。

(例) わたしは、牛乳が好きです。(だから)、毎朝牛乳をのんでいます。

☆例のように上下の文と文をつなぐ言葉を□から選んで( )に入れましょう。

- ① わたしは、図書館に行きました。(そして)、静かに本を読みました。
- ② あさっては、テストがあります。(しかし)、ぜんぜん勉強をしていません。
- ③ 日曜日に、米子の水鳥公園へ行きました。(また)、水木しげるロードにも行きました。

しかし  
そして  
また  
だから

④ 試合に負けてくやしかった。(だから)、次の日から、一生懸命練習した。



文と文をつなぐ言葉を「接続語」といい、文と文の関係をはっきりさせる働きをしています。

「だけど」「しかし」「けれども」「でも」は、前の文とちがうことや反対のことをつなぐときに使います。

「そして」「それで」「だから」は、前の文の続きや結果などをつなぐときに使います。

読めるかな？

☆ 次の月の名前を読みましよう。

一月…睦月	(むつき)
二月…如月	(きさらぎ)
三月…弥生	(やよい)
四月…卯月	(うづき)
五月…皐月	(さつき)
六月…水無月	(みなづき)
七月…文月	(ふみづき)
八月…葉月	(はづき)
九月…長月	(ながつき)
十月…神無月	(かんなづき)
十一月…霜月	(しもつき)
十二月…師走	(しわす)

家の人のおしるし↓ □